

【大自然の営み】

偶然の所産から サザエを飼育することになって 4か月目を迎えました。

サザエを下さった方からは 餌料としてのアラメを継続して過不足なく頂いていて このアラメが水槽の中を構成しているのですが 少々の彩を加えたいと欲しておりました。

また 海水は定期的に換えているのですが 海水の採取は潮の干満が支障にはならない場所で行っております。

〔ご推察のとおり 満潮時は海水採取での省力化が図れます。また 干潮時での為業に関しては別途の機会に触れることとします。〕

先日 通常陸上からは目にすることのできない紅藻が護岸に放置してありましたので奇貨として持ち帰りました。

この結果 想定外事象が二点出現しました。

そのうちの一点は サザエが食餌するということです。

第二点目が此度の提起する内容に係わる事象です。水流に従っての揺らぎは彩どりと併せて観賞上の有用性は発揮するのですが あたかも薄く霧がかかった大気であるかの様相 を水槽中に呈するのです。

この時点での アラメの残置量は僅か数日分であったのですが 翌日 約2か月分のアラメが届けられました。

このアラメを水槽に投入すると 海水の透明度が従前と同一の状態に戻ったのです。 テーブルマジックを見せられた思いです。

科学的根拠を得ているものではありませんが 海藻類が海洋の調和を保っていることに気付かされた次第です。

紅藻は 非常にたくさんの胞子を放出する〔下掲 URL 参照〕ことは視認できていたものの アラメとの関連性が新たな探求課題となりました。

<http://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/KURCIS/kawai/kawai-home/seaweed-kobe/Red-algae/p087red-title/p87.html>

上記の調和が保たれていると認識するに至った事象を包括することではありませんが 近年認識され遂行されております 海洋生産物の保全保育に対しての植林の促進 換言すれば 自然生態の循環性 への着眼が注目に値するものであると思っております。

今更ながらのことではありますが 我国にはアニミズムの一つである神道の根幹を成している 自然を畏怖し自然と共生する という観念が継続されていることには異論のないところであります。

地球上には過酷な自然環境を余儀なくされている地帯があり また 宗教上の観点からも相俟って 『自然』は征服されるべきものとの観念が存在しています。

地球規模での思想信条は数限りなく存在しているものであり それぞれの是非を論ずることは不適切ではありますが . . .

宇宙科学の観点からも また 仏教思想からも 地球上の生命は宇宙の『チリ』から生成しているのであり 自然環境に守られての生命維持が可能である『ヒト』が はたして 自然と対峙することが可能となり得るのであろうか と思料している次第です。